



商工中金

産業調査部

2022年7月

国内・海外・金融経済データ

1. 国内経済指標

【ご注意】

本資料は情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資判断の決定につきましては、お客様ご自身の判断でなされますようお願いいたします。

また、文中の情報は信頼できるとされる各種データに基づいて作成しておりますが、商工中金はその完全性・正確性を保証するものではありません。

※2022年7月8日時点のデータをもとに作成

個人消費は持ち直しの動きがみられる

商業販売額指数、乗用車販売台数

(2015年=100)

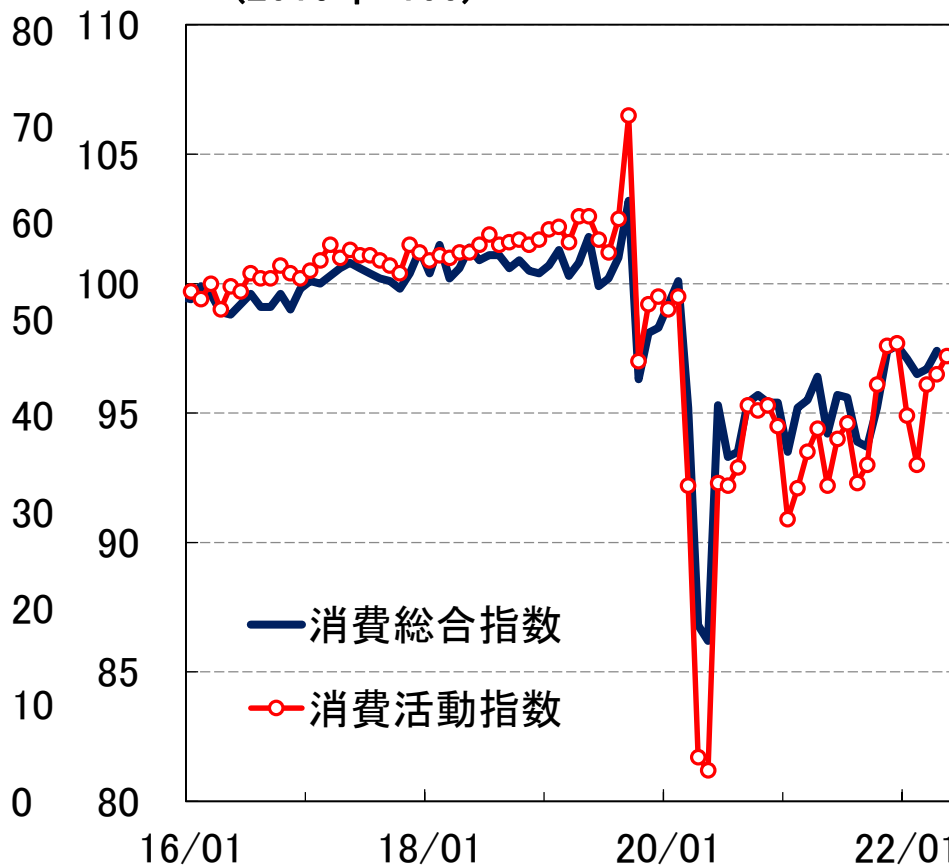
(万台)



(注) 商業販売額指数は名目、季節調整値。
 (資料) 経済産業省「商業動態統計」、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

消費総合指数、消費活動指数

(2015年=100)

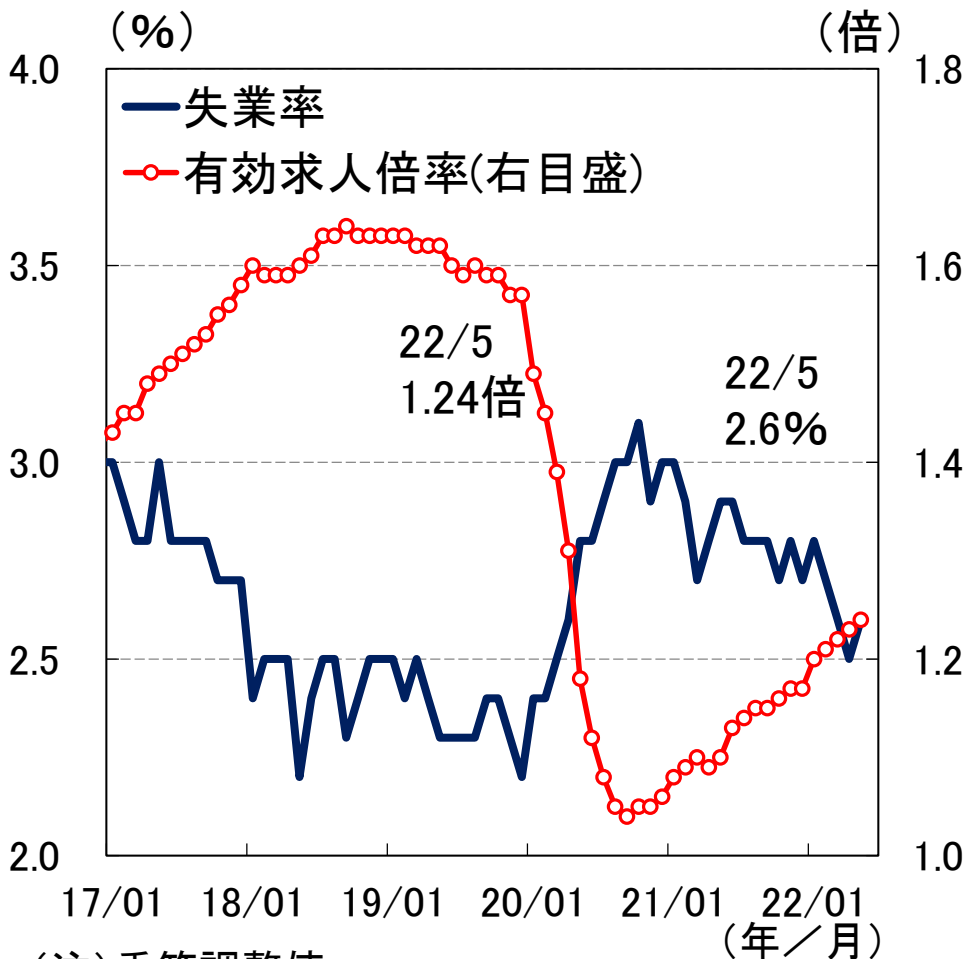


(注) 実質、季節調整値。
 消費活動指数は、旅行収支調整済。
 (資料) 内閣府「消費総合指数」、日本銀行「消費活動指数」

雇用環境は緩やかな改善基調

物価上昇が名目賃金の増加を上回り、実質賃金は前年比で減少

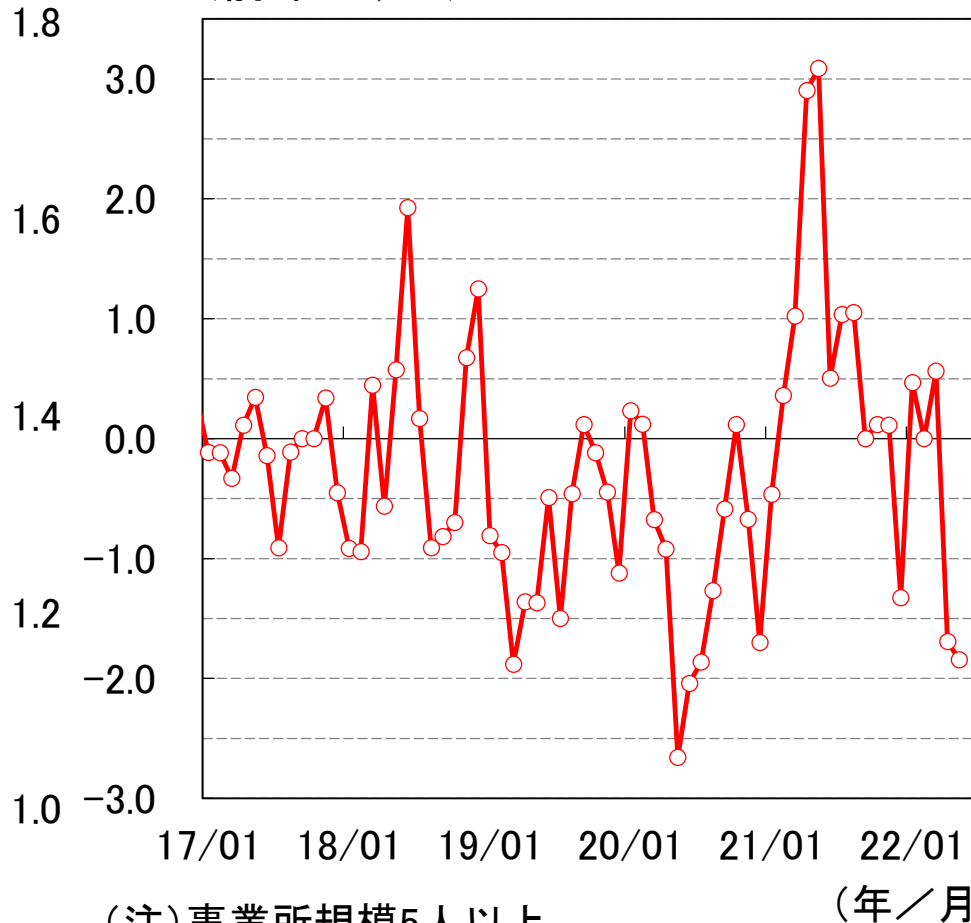
完全失業率と有効求人倍率



(注) 季節調整値。
(資料) 総務省「労働力調査」、厚生労働省「一般職業紹介状況」

現金給与総額(実質賃金指数、2020年=100)

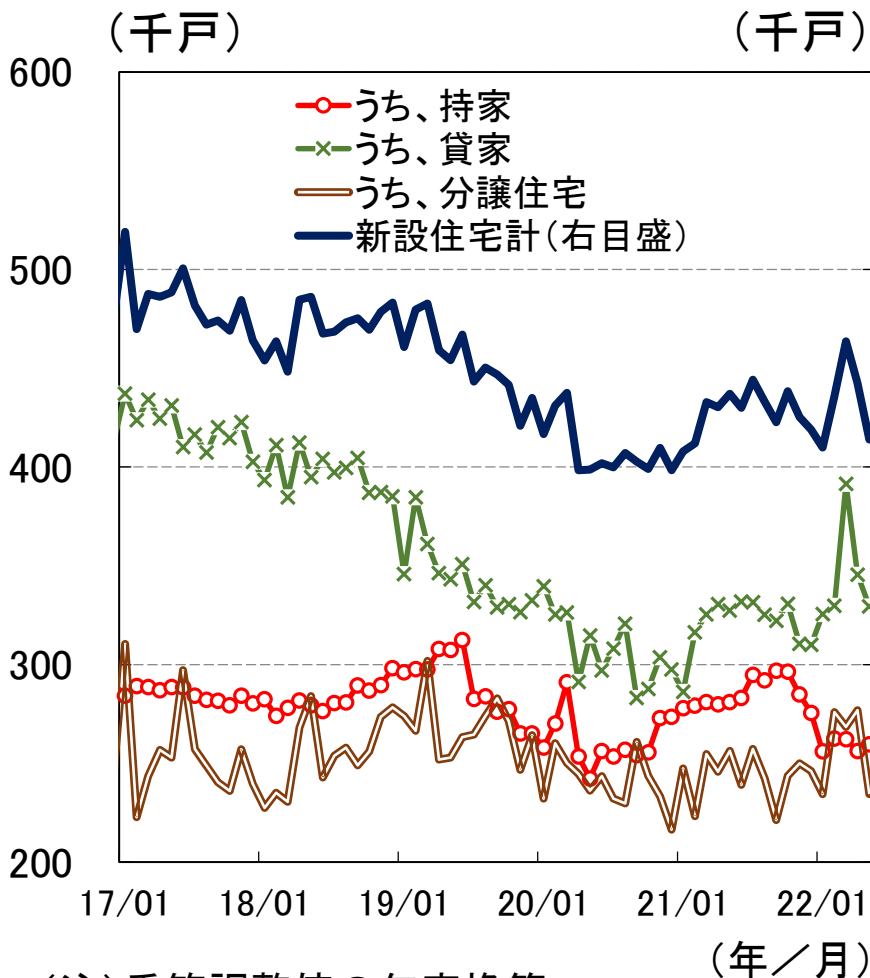
(前年比、%)



(注) 事業所規模5人以上。
(資料) 厚生労働省「毎月勤労統計」

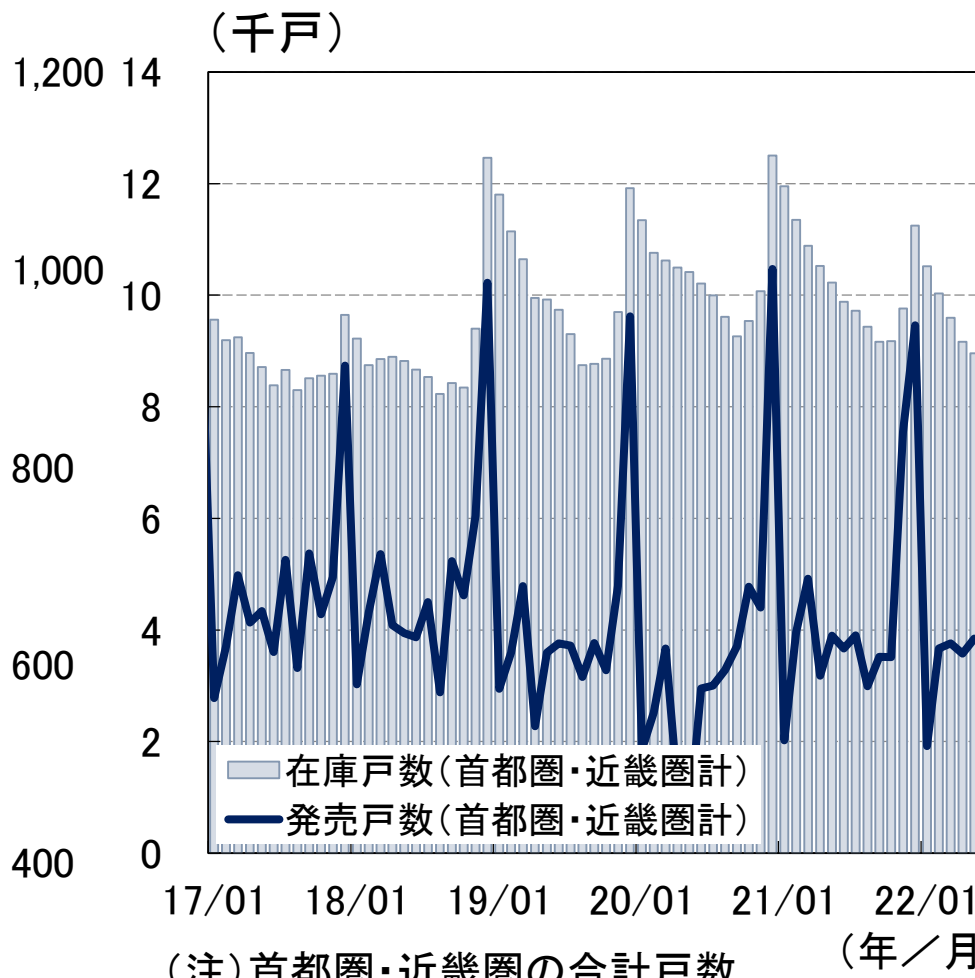
住宅投資は底堅い動きとなっている

新設住宅着工戸数



(注) 季節調整値の年率換算。
(資料) 国土交通省「建築着工統計」

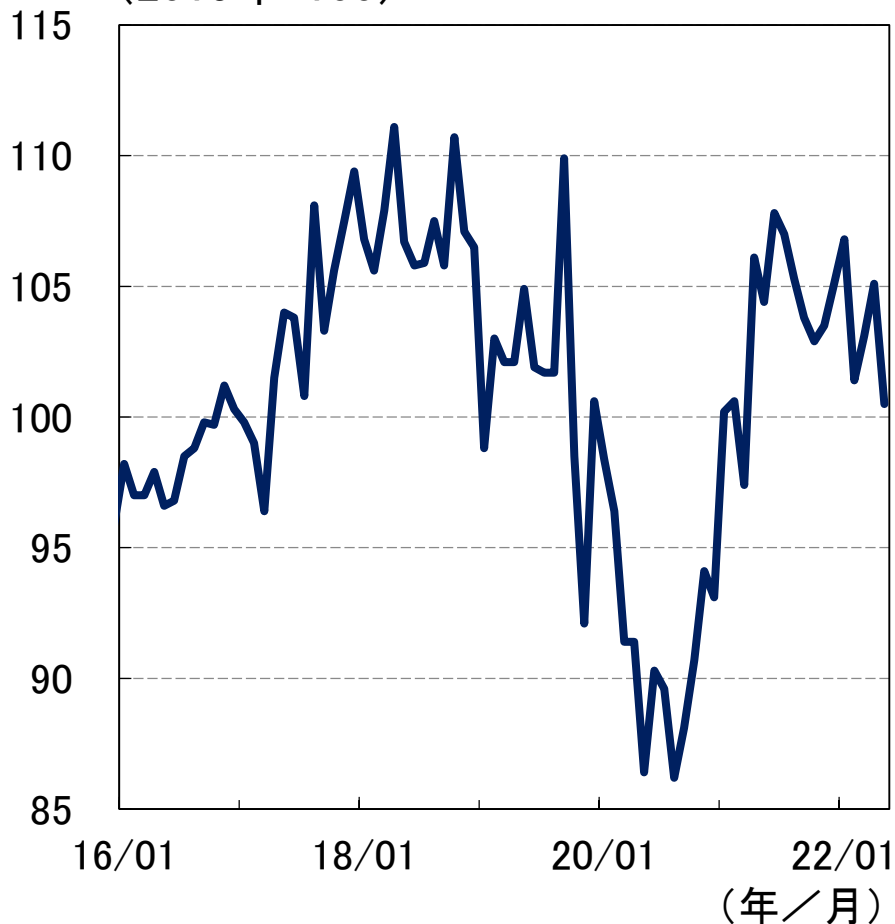
マンション発売戸数と在庫戸数



(注) 首都圏・近畿圏の合計戸数。
(資料) 不動産経済研究所「首都圏、近畿圏のマンション市場動向」

設備投資は持ち直しの動きがみられる

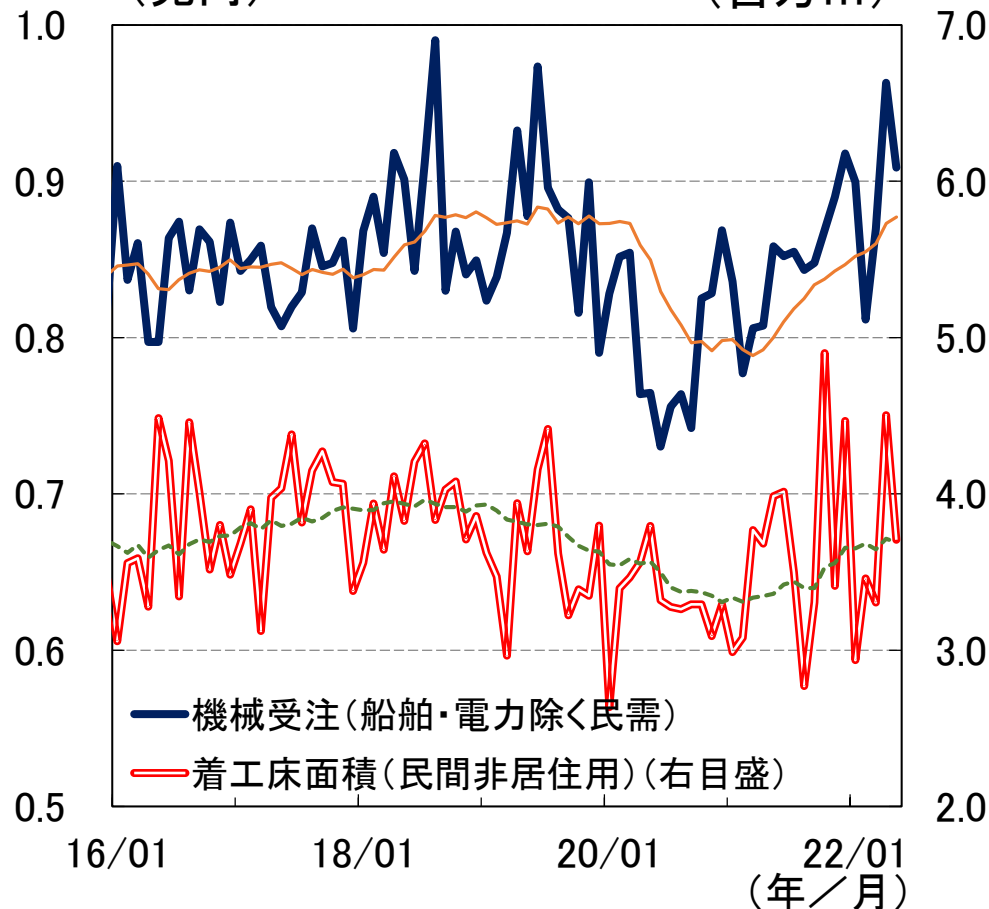
資本財出荷指数(輸送機械工業を除く)
(2015年=100)



(注) 季節調整値。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」

機械受注額と建築物着工床面積
(兆円) (百万m²)



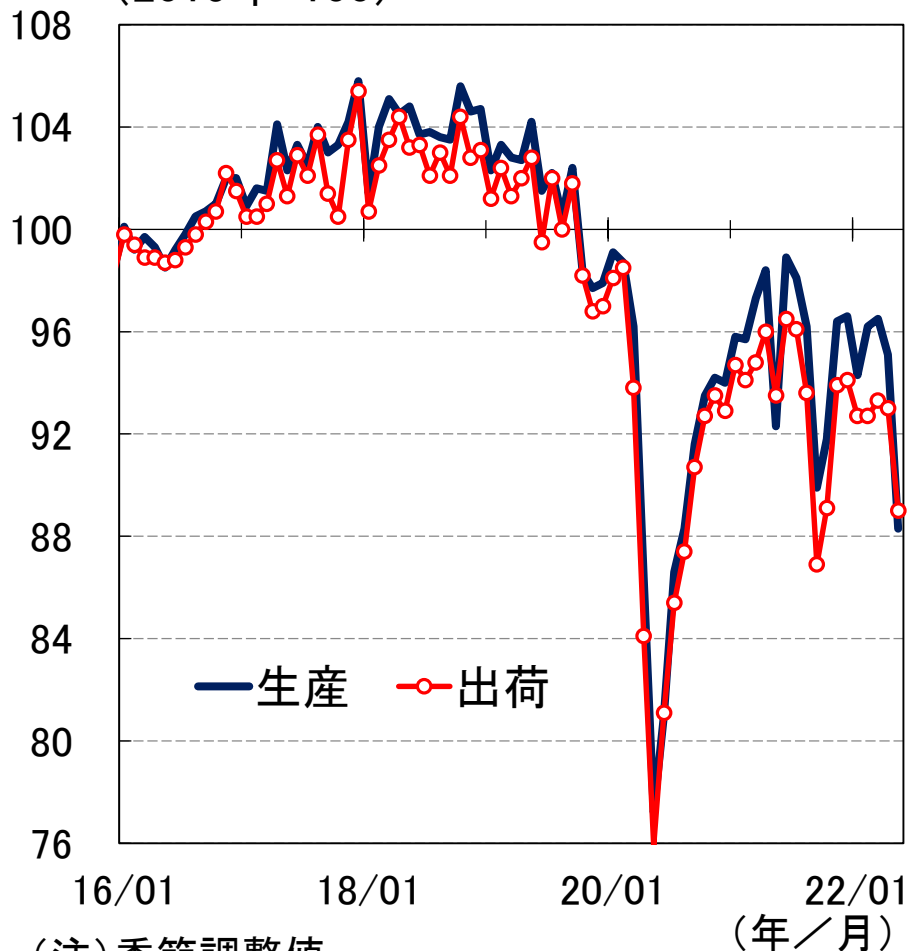
(注) 細線は機械受注、点線は着工床面積の12カ月後方移動平均。

(資料) 内閣府「機械受注統計」、国土交通省「建築着工統計」

中国でのロックダウン等の影響を受け、生産は弱含み

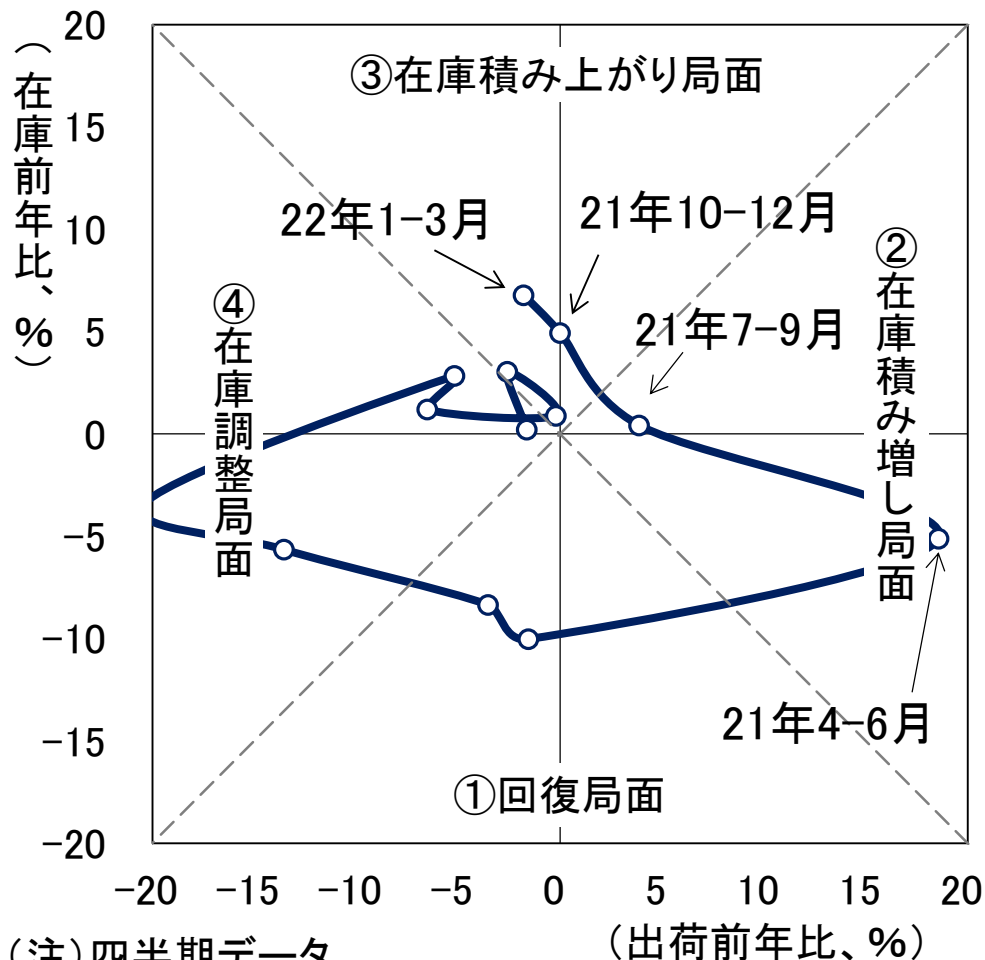
生産・出荷指数

(2015年=100)



(注) 季節調整値。
(資料) 経済産業省「鉱工業指数」

在庫循環図(鉱工業全体)

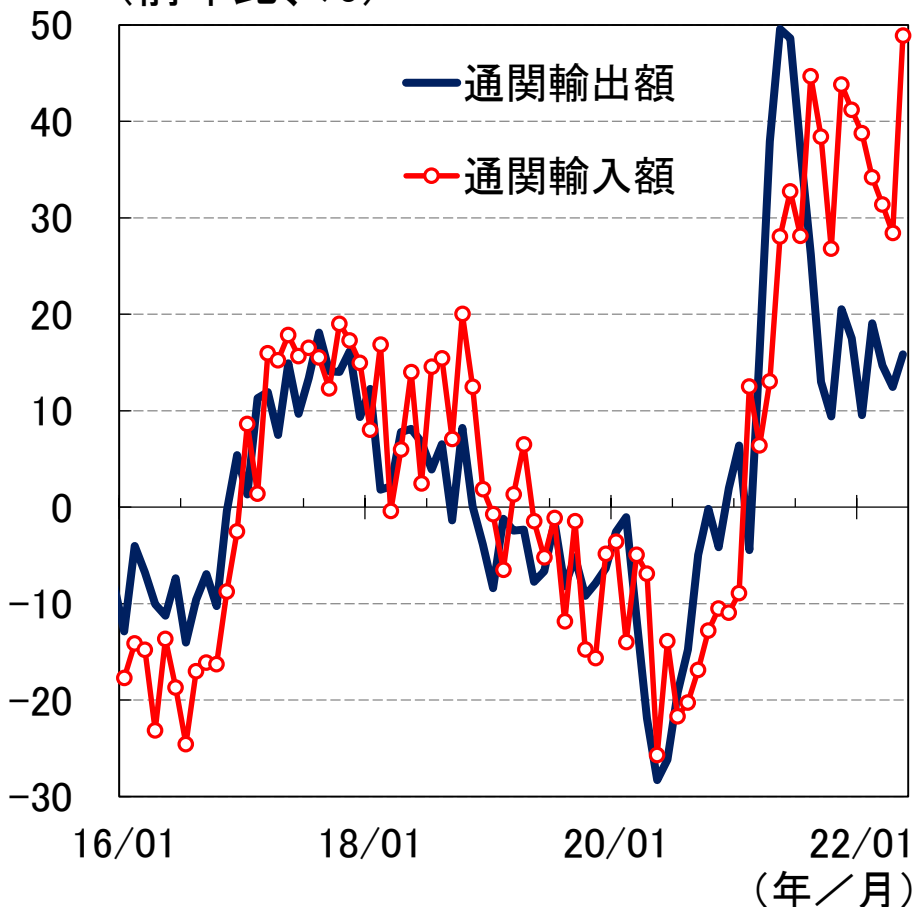


(注) 四半期データ。
(資料) 同左

原油高や円安などの影響により輸入の伸びが輸出の伸びを大きく上回り、貿易収支は悪化

輸出入額(名目)

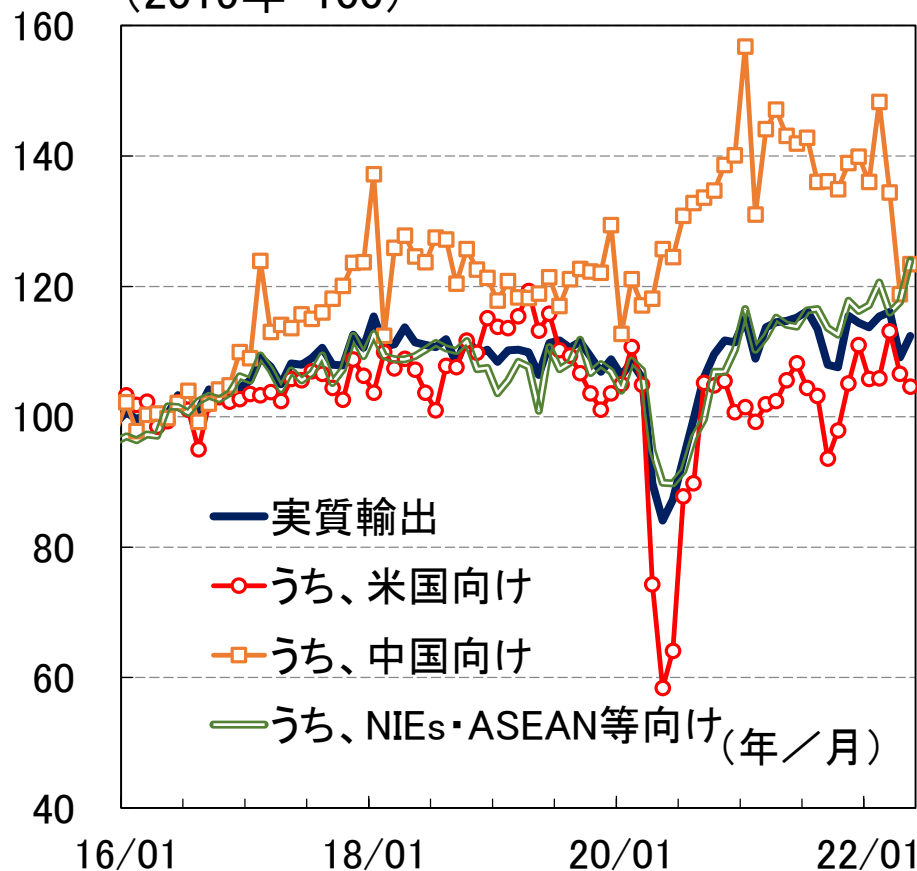
(前年比、%)



(資料)財務省「貿易統計」

実質輸出

(2015年=100)



(注)実質、季節調整値。NIEs・ASEAN等向けは、インド・バングラデシュなどを含む。
(資料)日本銀行「実質輸出入の動向」

企業物価は大幅上昇が続いている 消費者物価（コア指数）は携帯料金の値下げの影響がほぼ一巡し、前年比2%超が継続

企業物価指数(2020年基準)

(前年比、%)



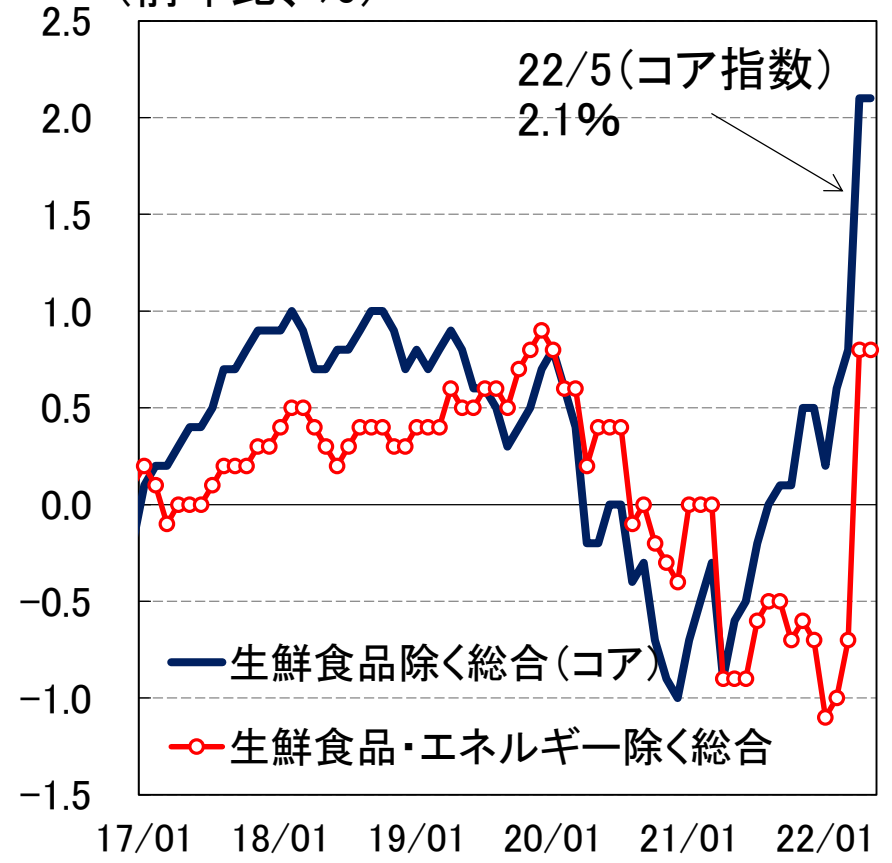
(年/月)

(注)素原材料、最終財は輸入品を含む。

(資料)日本銀行「企業物価指数」

消費者物価指数(2020年基準)

(前年比、%)



(年/月)

(資料)総務省「消費者物価指数」



国内・海外・金融経済データ

2. 海外経済・金融関連データ

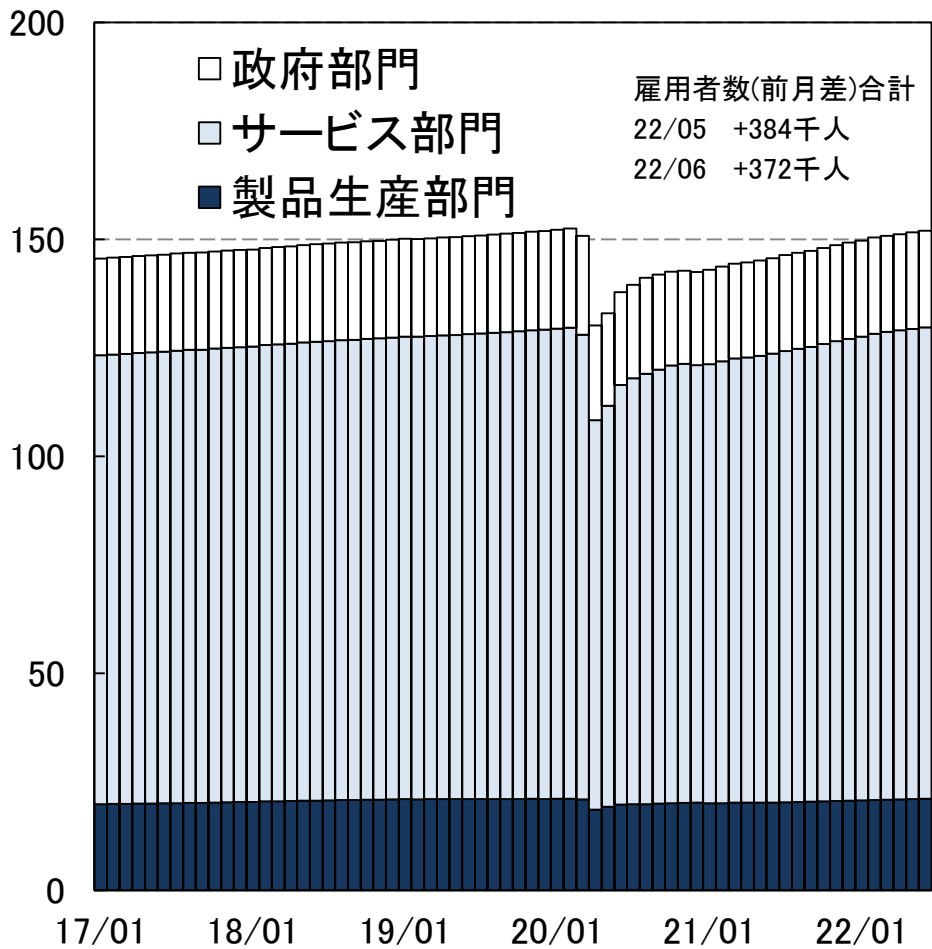
【ご注意】

本資料は情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資判断の決定につきましては、お客様ご自身の判断でなされますようお願いいたします。

また、文中の情報は信頼できるとされる各種データに基づいて作成しておりますが、商工中金はその完全性・正確性を保証するものではありません。

雇用者数・個人消費ともに堅調推移

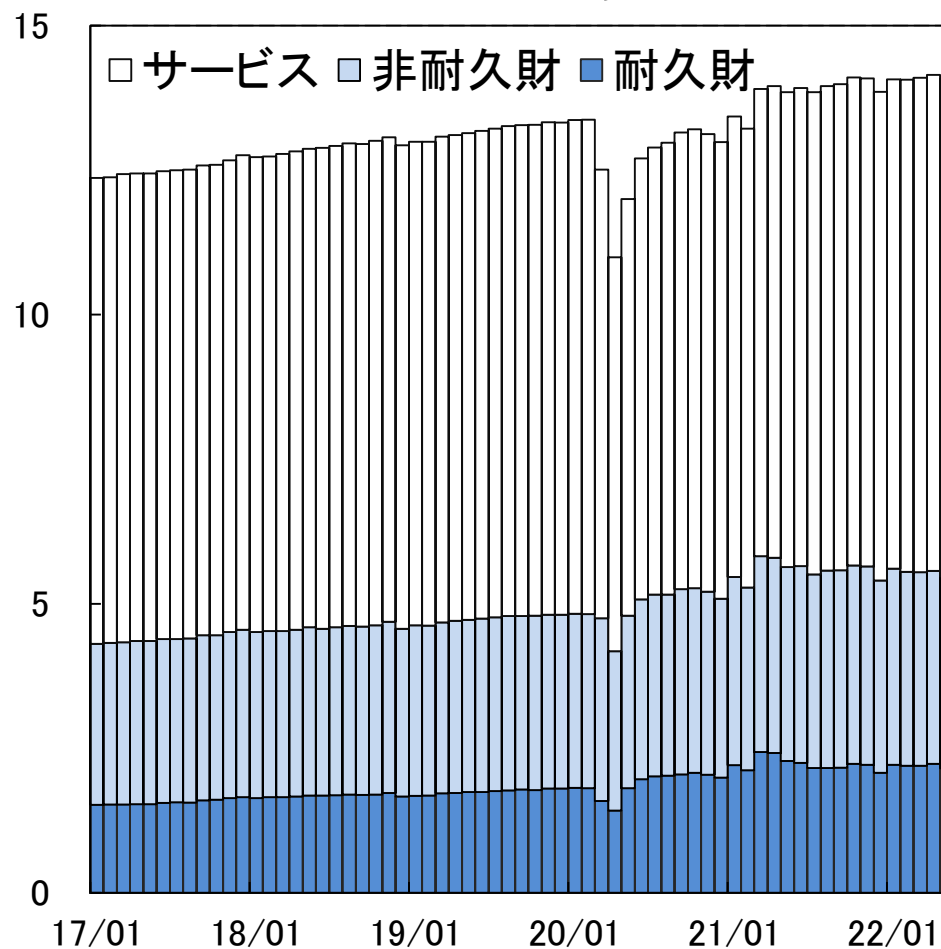
(百万人) 非農業部門雇用者数



(資料) 米国労働省、Bloomberg

(年/月)

(兆ドル) 実質個人消費支出



(資料) 米国商務省、Bloomberg

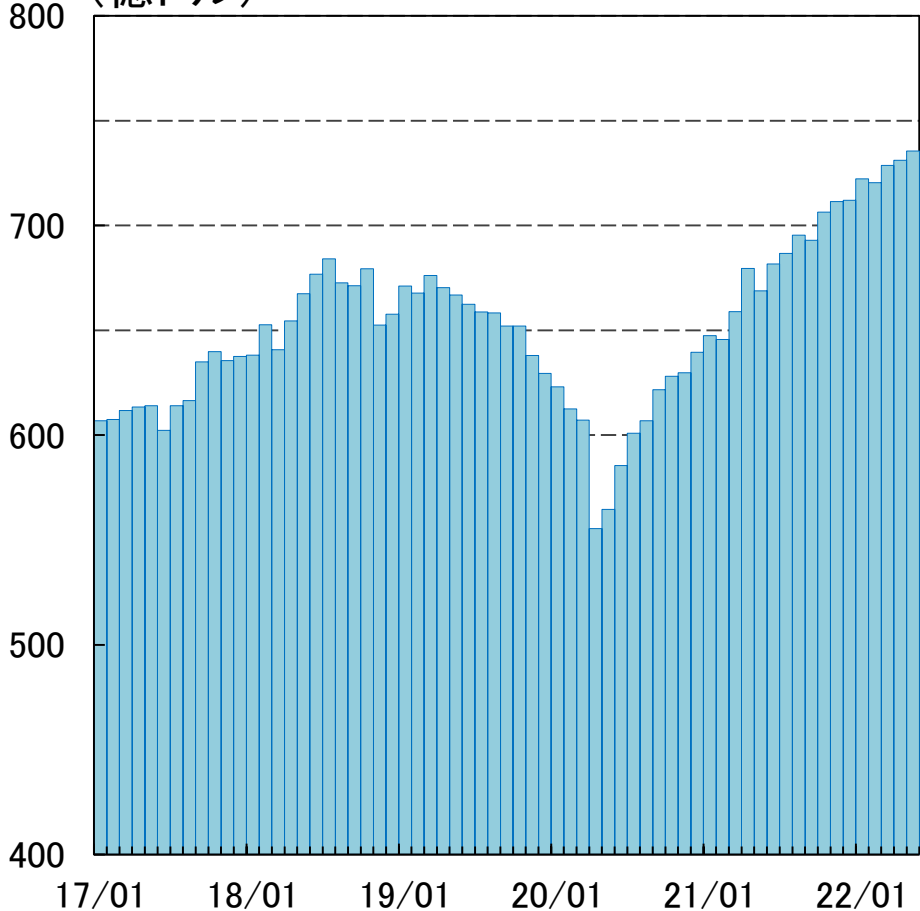
(年/月)

資本財受注は堅調推移

景況感を示すISM指数は低下

非国防資本財(除く航空機)受注

(億ドル)



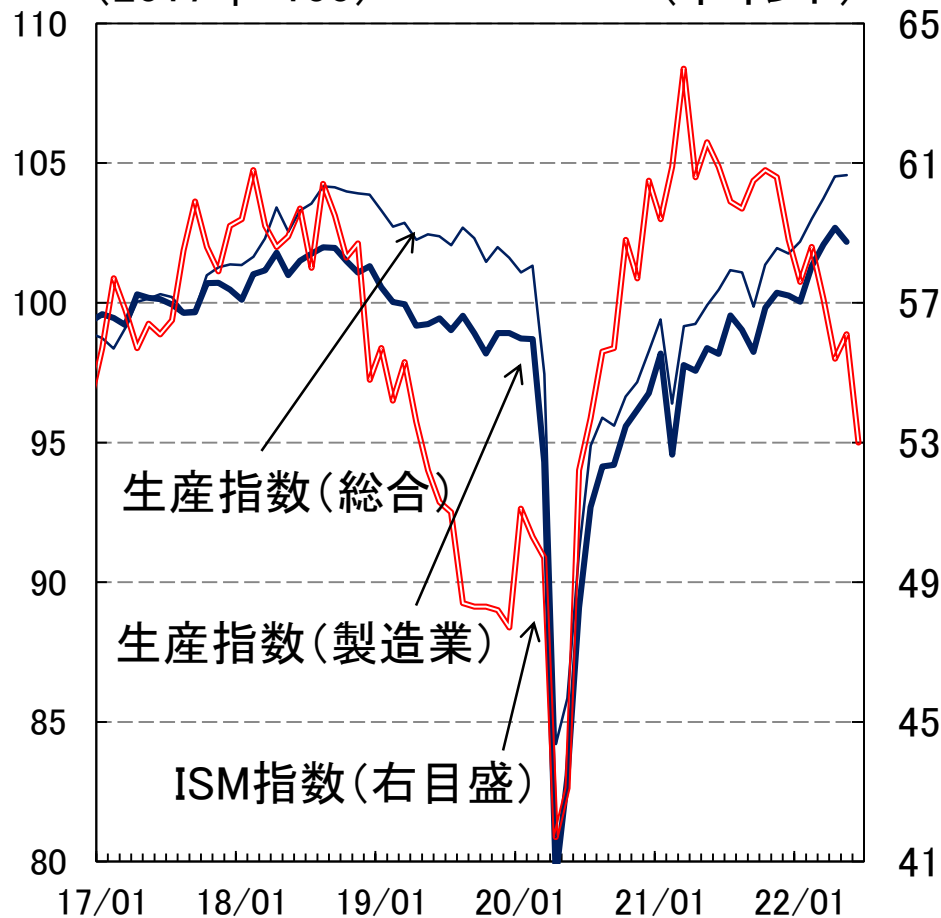
(資料) 米国商務省、Bloomberg

(年/月)

生産指数・ISM指数

(2017年=100)

(ポイント)



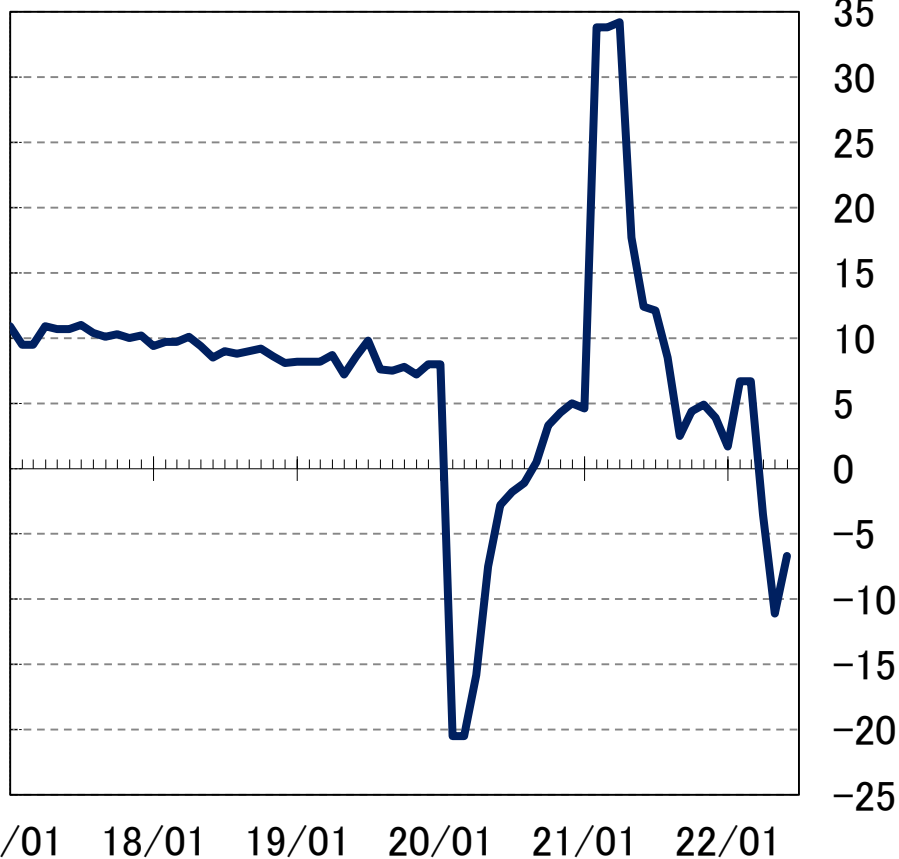
(資料) FRB、ISM、Bloomberg

(年/月)

ロックダウンの影響などにより、消費は前年比減少が継続

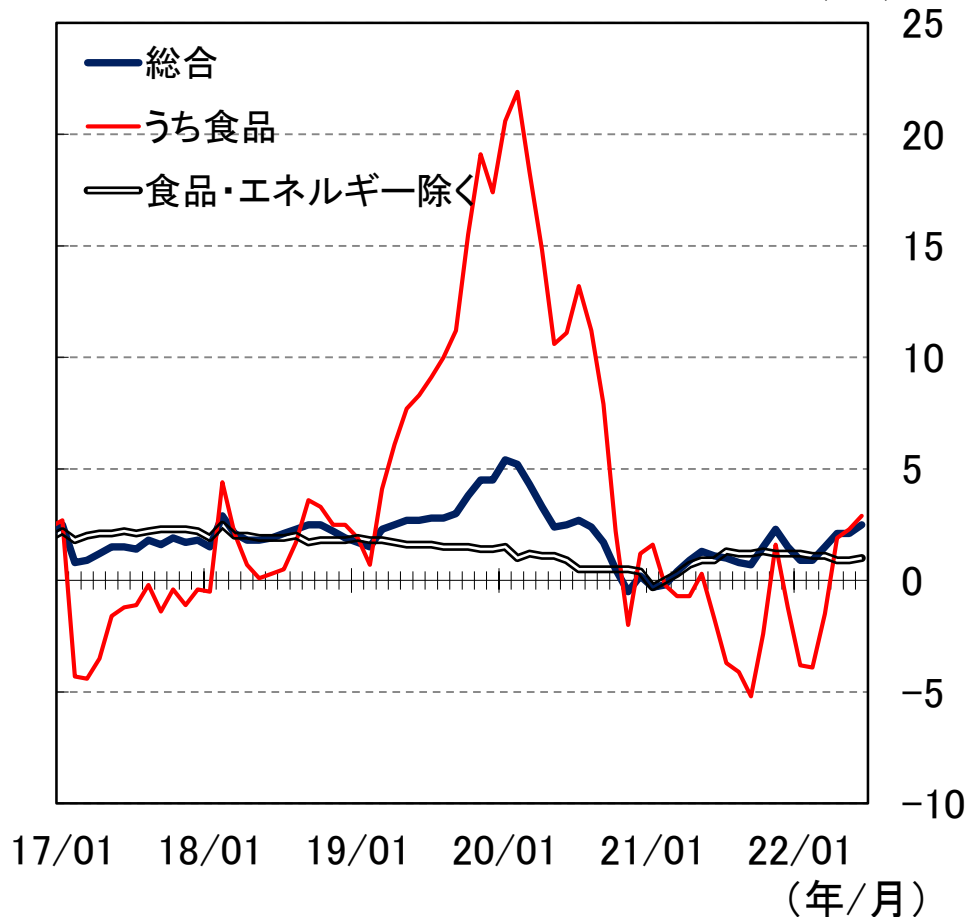
消費財小売総額(名目、前年比)

(%)



消費者物価指数(前年比)

(%)



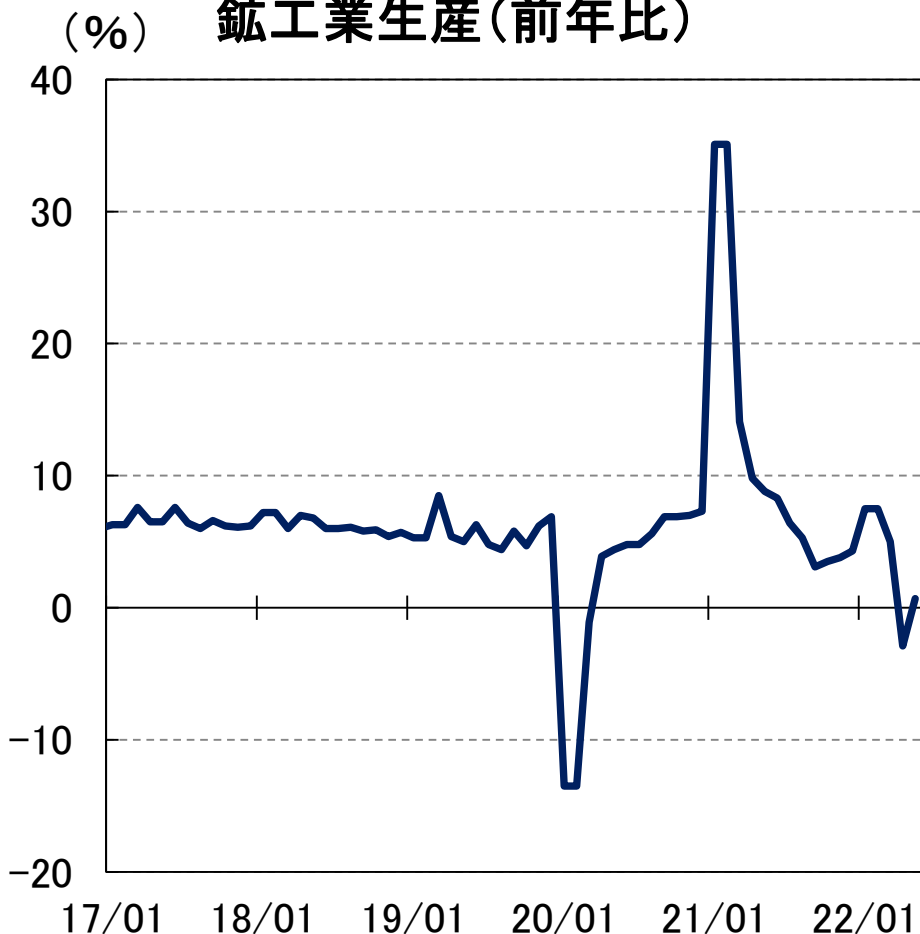
(注) 1、2月は単月計数未公表につき
1-2月累計前年比を記載。

(資料) Bloomberg、中国国家統計局

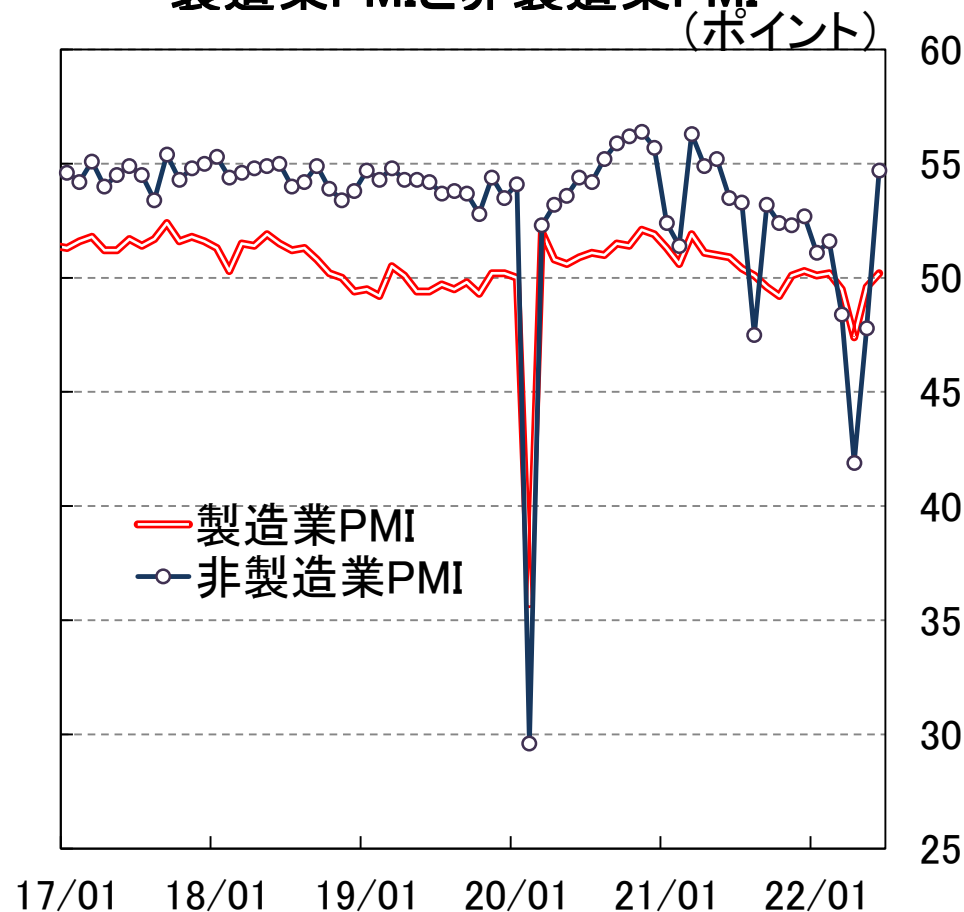
(資料) Bloomberg、中国国家統計局

ロックダウンの影響が徐々に和らぎ、生産は持ち直し
景況感についても回復

鉱工業生産(前年比)



製造業PMIと非製造業PMI

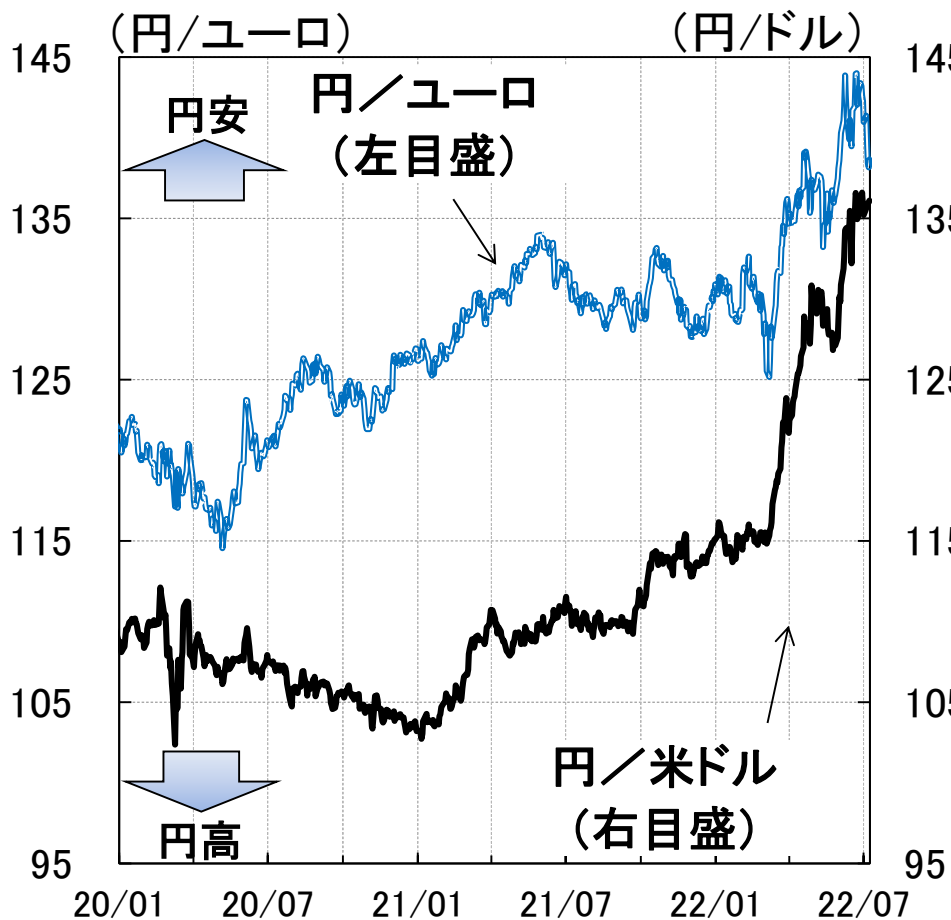


(注) 鉱工業生産の毎年1月、2月とも単月数値は (年/月)
未公表のため、1-2月累計値の前年比を記載。
(資料) Bloomberg、中国国家统计局

(資料) Bloomberg、中国国家统计局

米国金利上昇観測をうけドル円はさらに円安が進行、
景気後退懸念から株価は下落

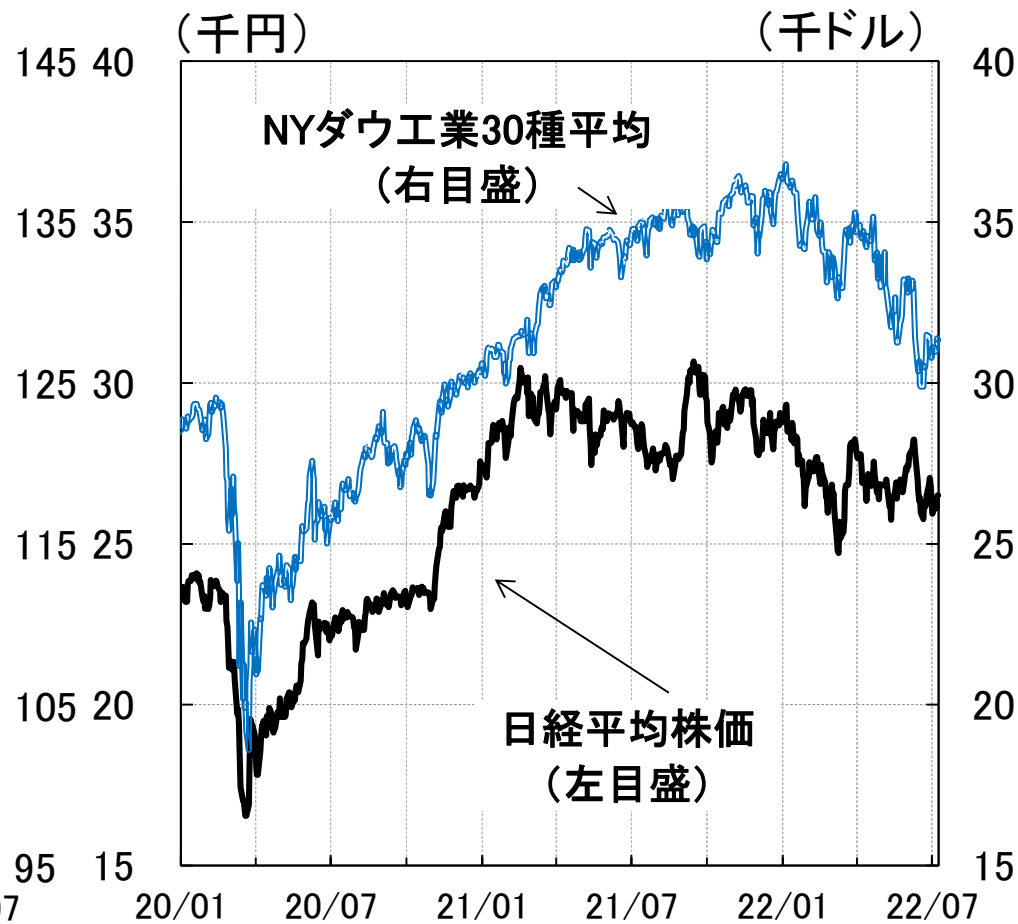
為替相場の推移



(資料) Bloomberg

(日次: ~7/8)

日米株価の推移



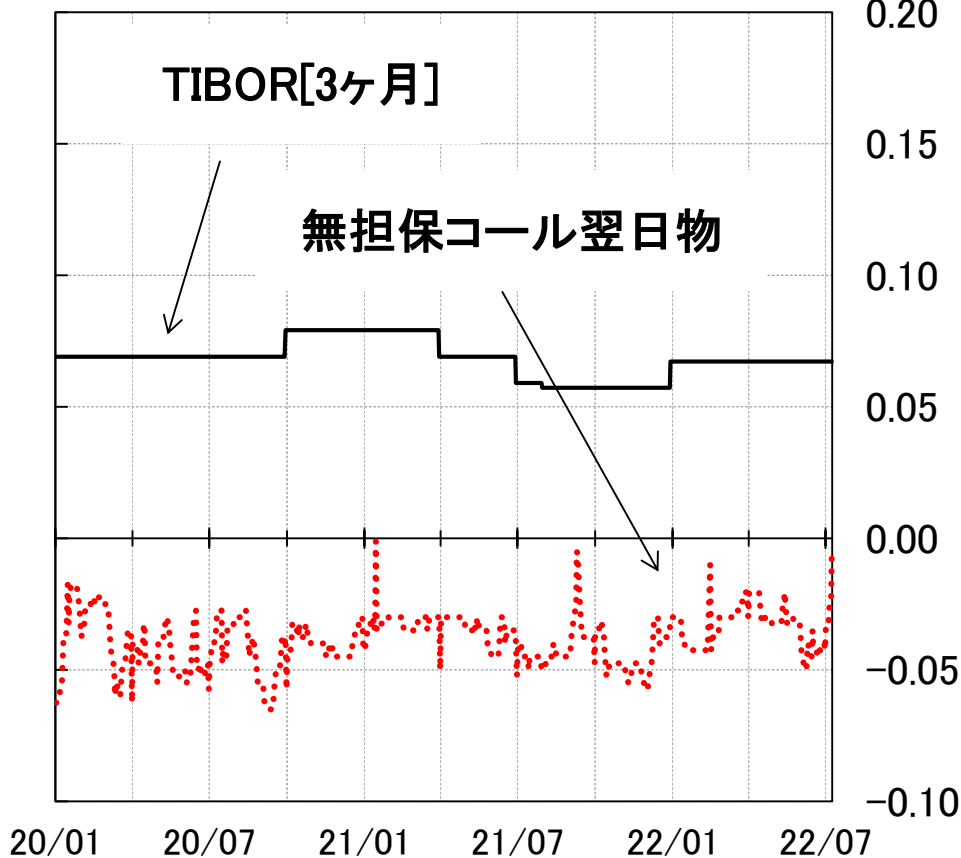
(資料) Bloomberg

(日次: ~7/8)

長期金利（10年国債利回り）は日本銀行が変動許容幅の上限としている0.25%近傍での推移が続く

国内短期金利の推移

(%)



(日次: ~7/8)

(資料) Bloomberg

国内長期金利の推移

(%)



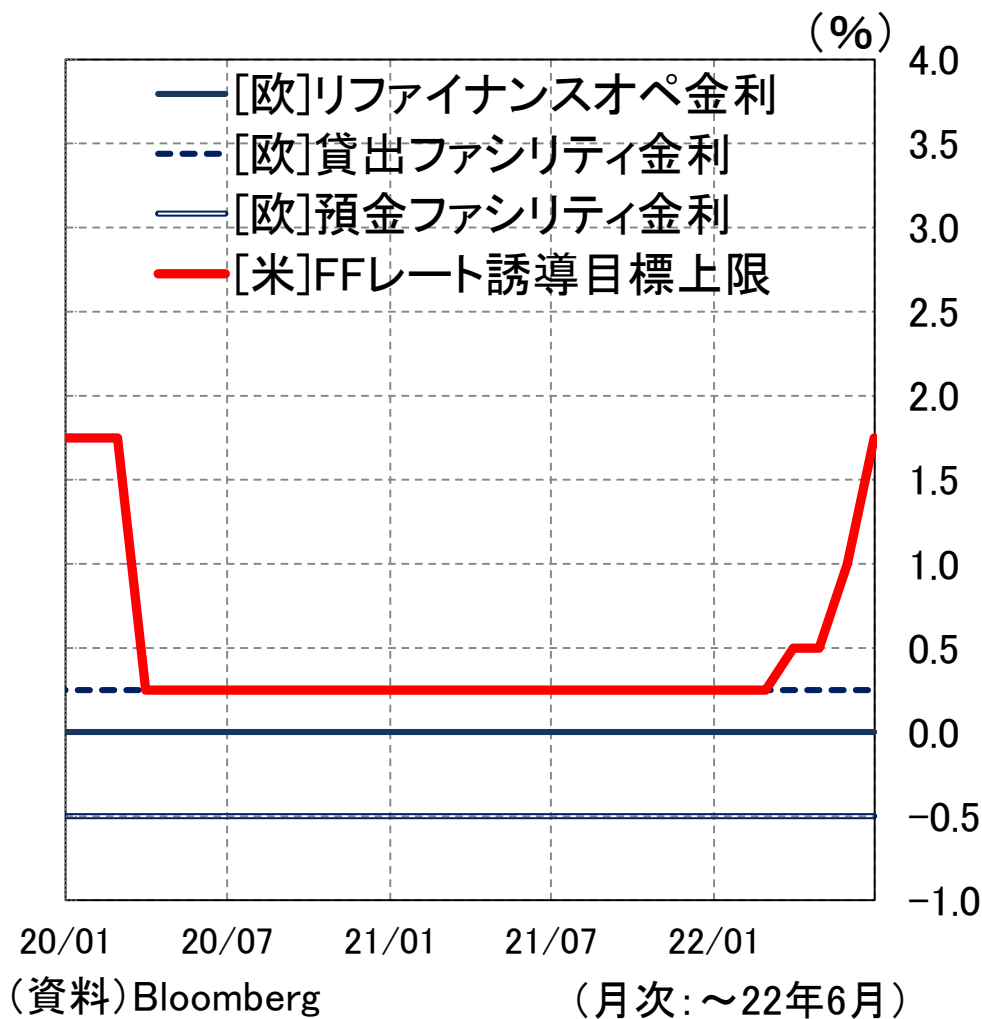
(資料) Bloomberg

(日次: ~7/8)

6月のFOMCでFRBが0.75%の利上げを実施

原油価格は世界景気の後退懸念などからやや軟調

欧米政策金利の推移



原油価格の推移

